

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-1-7  
災害に強い県土づくり

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 斐伊川神戸川対策課長 横川 裕 電話番号 0852-22-5937

事務事業の名称	斐伊川放水路事業促進事業	
目的	(1) 対象	斐伊川放水路建設に伴い、移転等のため生活環境に支障が生じることとなった周辺住民の方々
	(2) 意図	斐伊川放水路建設に伴い、移転等のため生活環境に支障が生じることとなった周辺住民の方々の生活環境を改善するため、道路、集会所、上下水道設備などこれまで未整備であった生活基盤施設の整備を行うもの。併せて、放水路建設を着実に進めていくため、周辺住民の方々の理解をいただくため行う周辺対策事業の側面も持つ。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出雲市が行う周辺地域の整備（道路、河川、農林土地基盤、集会所・上下水道などの生活環境施設等）について、整備の進捗を早めるため、出雲市の実質負担額の2分の1を補助等する財政支援を行っている。</li> <li>・斐伊川放水路事業で発生した残土処理場（グリーンステップ）について、跡地利用が決まるまで草刈などの管理を行っている。（県による再取得が未完了の区域については、県からの貸付金により県土地開発公社が管理）</li> </ul>	

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	斐伊川放水路関連周辺地域整備事業及び圃の長浜地域整備事業の全体計画に対する進捗割合	目標値	94.7	93.6	95.8	97.8	98.8	%
	式・定義	斐伊川放水路関連周辺地域整備事業及び圃の長浜地域整備事業に要した経費/地域整備事業の全体計画事業費	取組目標値						
			実績値	93.0	93.3	93.7			
			達成率	98.3	99.7	97.9	-	-	%
2	指標名		目標値						%
	式・定義		取組目標値						
			実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	338,645	382,957
うち一般財源 (千円)	60,383	50,941

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・斐伊川放水路は、平成25年6月に完成。これまでに6回の分流が実施され、斐伊川下流における水位上昇を抑える効果がみられた。グリーンステップAB谷の上部平場については、メガソーラー発電用地として貸与している。

・出雲市が行う「放水路関連周辺地域整備事業等」については、道路用地の確保等に手間取り事業進捗が遅れていたが、事業の完了予定を平成32年度に変更して事業を継続している。「圃の長浜地域整備事業」については、市の行う事業が平成29年度で完了、県が負担する交付金は30年度で支払いが完了。

・グリーンステップC谷は、国土交通省による斐伊川放水路事業での残土処理に引き続き、出雲県土整備事務所が新内藤川水系の河床浚渫土の残土処理場として平成32年度まで整備を続けている。事業終了後の再取得にあたり、利活用についても検討を始めている。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

・「周辺地域整備事業」については、道路・河川をはじめ、用水等の農林業土地基盤整備、集会所等の生活環境施設整備が実施され、290箇所において整備が完了し、放水路周辺における生活環境が改善された。

・「圃の長浜地域整備事業」については、最後に残っていた長浜神社下線の整備が平成29年度に完了した。29年度実績に対する交付金を30年度に市に交付し県の事業は終了する。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- ・「周辺地域整備事業」については、平成32年度を最終年度としている中で、実施内容が未確定の事業がある。（例：ジョギングコース整備）
  - ・グリーンステップ（AB谷）については、再取得済の区域内において用地整理が済んでいない部分がある。
  - ・グリーンステップ（C谷）については、整備完了が迫る中、利活用計画が決まっていない。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・「周辺地域整備事業」については、昭和61年度から全体計画を見直しなが進めているが、年月の経過とともに住民の意識も変化しており、そのことを踏まえた市による地元意向確認や調整が完了していない。
  - ・グリーンステップ（AB谷）にある水路等の施設について、管理区分の協議が整っていない箇所がある。グリーンステップ（C谷）の利活用について、地元からは（AB谷のメガソーラーのような施設ではなく）「雇用を創出し、賑わいのある利用」を求められており、地元の意向に沿うような利活用計画の策定が難航している。
- ③原因を解消するための「課題」
- ・「周辺地域整備事業」については、未完了の整備箇所に係る具体案を出雲市が示し、事業完了に向けて地元の了解を得ることが必要である。
  - ・グリーンステップ（AB谷）において、水路等の出雲市が管理すべき施設については市が管理するよう、過去の経緯を踏まえた調整を図る必要があり、構造物を設置した国土交通省も含めた協議が必要。
  - ・グリーンステップ（C谷上部平場）は給排水設備が未整備であり、現状では用途が著しく制限される。県だけの解決は困難であるので、出雲市と連携を図りながら進める必要がある。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・斐伊川放水路は、地元住民や出雲市の理解で完成したことから、周辺整備事業については平成32年度までに計画通り完了できるよう、引き続き、出雲市や国土交通省、県の関係部局等と協議を行いながら進める。

・グリーンステップ（AB谷）については、引き続き市との協議を行いその結果を踏まえ測量・登記処理等を行う。その際、既に不要となっている構造物の撤去方法等については国土交通省も含めた協議を行う。

・グリーンステップ（C谷）については、出雲市から上水道を整備するための費用等について試算してもらうなど、より具体的な検討を行う。県のホームページでのPRを継続し、利活用についての問い合わせ状況等を見ながら、利活用検討委員会の立ち上げについて検討を進める。

・グリーンステップ（C谷）については、平成32年度以降に予定している国の地上権解除と県への施設引渡しに向けた出雲河川事務所との協議を行うとともに、公社からの用地再取得に先駆けて底地の用地整理に着手する。